

2011年11月10日

## 飯舘村仮設住宅等における避難村民への聞き取り調査結果の速報

日本大学生物資源科学部建築・地域共生デザイン研究室(教授 糸長浩司)

飯舘村後方支援チーム、NPO 法人エコロジー・アーキスケープ

<http://www.ecology-archiscape.org/index.html>

### 1. はじめに

本速報は、東京電力福島第一原発事故で放射能汚染され、計画的避難区域に指定され、全村避難している飯舘村村民に対する聞き取り調査の速報です。実施団体は、長年飯舘村のエコロジカルで住民と行政の協働による村づくりを支援してきており、今回の災害に際しても当初により、多様な支援活動をしてきています。

放射能汚染状況が非常に厳しいなか、農地や森林が深刻に放射能汚染されている状況で、徹底したモニタリングの実施や専門的な除染活動を進めることが必要ですが、一方で、除染活動だけに専念せず、長期的な視点を含めた安心できる避難環境づくりとコミュニティの再生、中期・長期的な視点からの移住、還村の計画と実施が必要であることを提案してきています。

今回は、その支援活動の一環として、仮設住宅での避難村民の人達の協力を得て、避難状況の実際、離村や移住を含めた、飯舘村の新たな復興再生の方向性を探るために、避難している村民の真実の意見、考え、悩み等を把握することを目的としています。飯舘村民の避難状況及び仮設住宅での暮らし要望、帰村や移住希望等に関する聞き取りに関する速報です。

飯舘村民の6割以上が借り上げ住宅に個別分散避難している状況で、今回は仮設住宅という集団でまとまって避難している人達の意見の集約という制約があります。分散している村民は若い世帯も多く、若い人達の意見がまだ十分に反映されていない状況です。尚、10月4日に「負けねど飯舘」の人達と開催した緊急シンポジウムでの参加者アンケートは、借り上げ住宅等に暮らしていると思われる若い人達の意見が出ており、本報告を補完するものと思います。

ヒヤリング結果を避難している村民の皆さんや、行政当局にお知らせして、今後の適切な避難生活、移住も含めた飯舘村の短期・中期・長期的な復興再生計画とアクションを検討する資料として活用されることを希望しています。

調査に協力していただきました、飯舘村民の皆様には深く感謝申し上げます。

### 2. 調査実施の方法

調査は、10月4日～10月18日までの間の4日間において、研究室の教員・学生及び後方支援チームのメンバーが、避難村民の協力を得、かつ各仮設住宅自治会長の協力を得て、各仮設住宅地での集会施設に村民に集まって頂きました。その際に、調査の目的、今までの飯舘村での放射能調査活動や支援提案の報告を行い、意見交換をした後に、参加者に個別聞き取り調査をしてまとめたものです。聞き取り調査では項目毎の自由意見を聞き、その後に自由意見の内容を整理して項目化して集計をとるという方法をとりました。

### 3. 聞き取り調査の箇所と年齢・性別、家族人数の変化

調査箇所は伊達市伊達東仮設住宅、福島市松川第1仮設住宅、相馬市相馬西仮設住宅、国見町国見仮設住宅、福島市吉倉宿舎の5カ所です。聞き取り調査の協力村民は52人です。

年齢層は、20歳代～80歳代の年齢的な幅がありますが、吉倉地区以外が高齢者の多い聞き取り対象者となりました。仮設住宅での高齢者居住が多いことが反映されています。男性17人、女性35人で男女比は、1：2で女性が多い状況で、女性の高齢者の比率が高いです。

また、家族数は避難前後では減少し、大規模家族が世帯分離し、高齢者世帯と若者世帯の分離が起き、寂

しさを感じている村民が多くいます。家族の絆を維持していくための努力、相互訪問等がされていますが、それに伴う経費負担も大きいと思われます。

回答数(人)		52
年齢	20代	3
	30代	6
	40代	1
	50代	8
	60代	9
	70代	18
	80代	7
各仮設住宅の平均年齢(歳)		63.0
	相馬	55.7
	伊達	69.0
	松川	75.0
	国見	73.2
	吉倉	40.5

表2 避難前と避難後での家族人数の変化表  
避難前と避難後の家族の人数の変化

		避難前の家族人数								
		1	2	3	4	5	6	7	8	9
仮設住宅での家族人数	1	4	3		2		3			
	2		7	6	1	2	1			
	3			3	1	2				
	4			1	2	1		2	1	
	5					2	2		2	1
	6						1			1
	7									
	8									
	9									

表3 聞き取り対象者の仮設住宅での行政区別の避難状況

		飯舘村の行政区																			
現在の住居		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
伊達		5		1		2					1								1	1	1
相馬						2		2				2					1				
松川					2	3	1				1	2									
国見		3		1					2			1			1				1		2
吉倉		1	1	1		1					2			2		2	2				1

飯舘村に住んでいたころの行政区分と現在の避難先

草野(1) 深谷(2) 伊丹沢(3) 関沢(4) 小宮(5) 八木沢・芦原(6) 大倉(7)  
 佐須(8) 宮内(9) 飯樋(10) 前田・八和木(11) 大久保・外内(12) 上飯樋(13)  
 比曾(14) 長泥(15) 蕨平(16) 関根・松塚(17) 臼石(18) 前田(19) 二枚橋・須萱(20)  
 行政区の番号表

#### 4. 聞き取り調査結果

##### (1) 飯館村にいた頃と仮設住宅での日常的な暮らしの変化

災害以前での村での暮らしは、農業をする暮らしが目立っています。仮設住宅での暮らしでは、散歩と世間話し・談話で過ごす時間が多いことを示しています。散歩が多く、今後寒くなり、冬期間での日々の健康維持に対する仮設住宅での取り組みがより必要となっています。

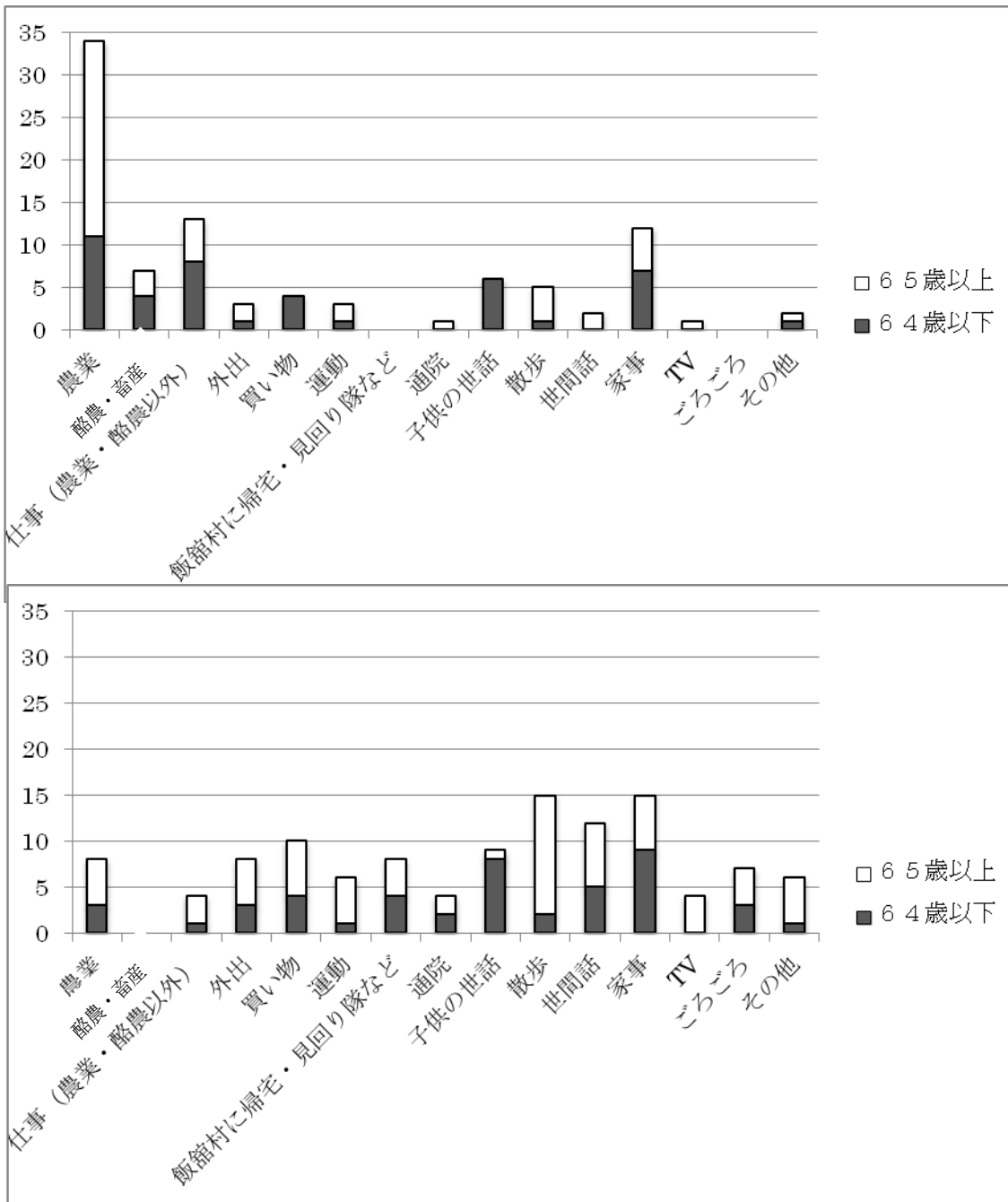


図1 避難者の一日の過ごし方 上：飯館村時（震災前） 下：現在（仮設住宅）

## (2) 仮設住宅の暮らしでの不満な点

飯舘村では大きな家にゆったりと暮らしていた村民にとっては仮設住宅が狭い環境であり、また隣と壁一枚での暮らしであり、狭い、音、プライバシーの問題に対する不満が高くなっています。菜園等の農的環境を希望する村民もいます。個々の仮設住宅の建築状況が異なる点もありますが、軒がなく洗濯干しで苦勞している意見も出ています。仮設住宅の建設そのものが飯舘村営でない地区もあり、仮設住宅改善の要望を実現するための、行政的工夫、支援のあり方が改善がより必要となっています。

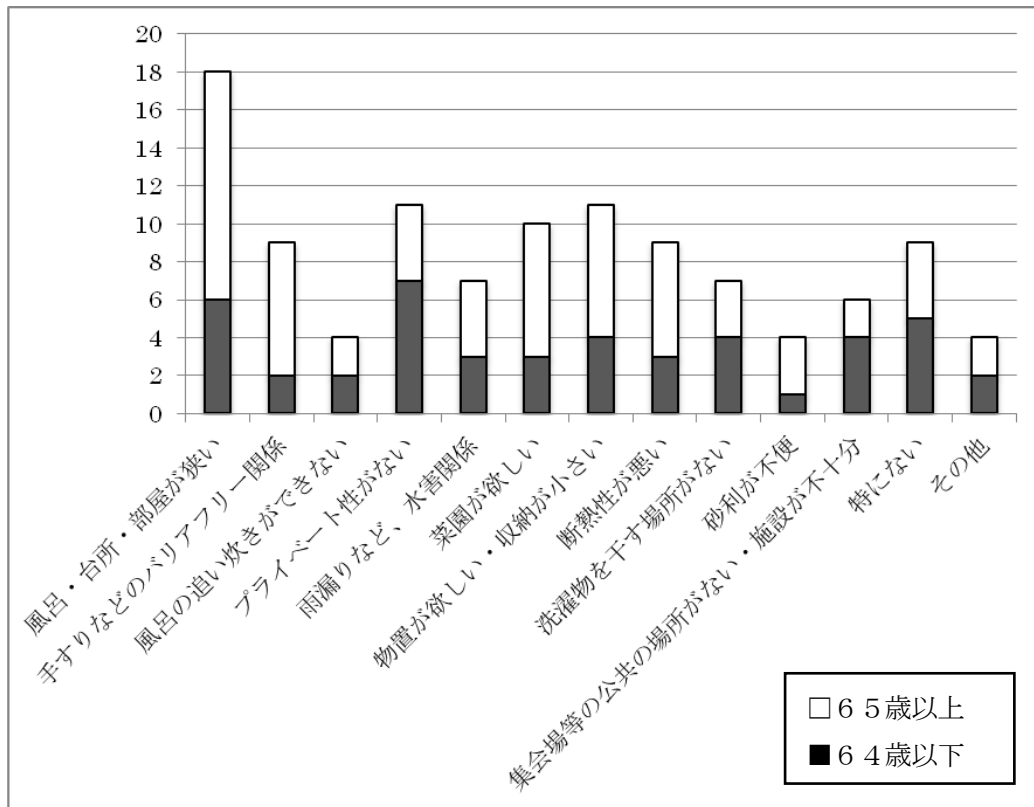


図2 仮設住宅での不満な点

## (3) 震災前と仮設住宅でのコミュニティ形成の変化

震災に伴い、行政区での付き合い、コミュニティ形成の継続が難しくなっています。

1/3が継続的付き合い、1/3が付き合いが弱い、1/3が交流が無くなったという状況であり、行政区でのコミュニティの解体の状況が示唆されます。避難先での行政区でのコミュニティ維持を図るためのイベントや、行政区でまとまって住むための条件整備、移住を含めた新たな施策の検討が必要となっています。今回の調査では仮設住宅というまとまって避難している村民の状況ですが、実際には借り上げ住宅に住む村民が6~7割存在するという避難状況で、借り上げ住宅で避難する村民達は自治会組織も結成されておらず、震災以前のコミュニティを避難先で維持することはより難しくなっていると推察されます。この対策が急務であると思います。

一方で、仮設住宅での新しい出会いもあり、新しいコミュニティ、付き合いが出てきている人達も多くいます。仮設住宅での自治会活動、コミュニティ形成のための仕組みづくり、イベント、環境改善等が大切であることを示しています。

	全体	64歳以下	65歳以上
今現在付き合いが存続している。	15	4	11
昔ほどではないが存続している	16	6	10
ほとんど交流はない	17	11	6
新しい付き合いはできた	15	5	10
新しい付き合いは特にない	5	2	3

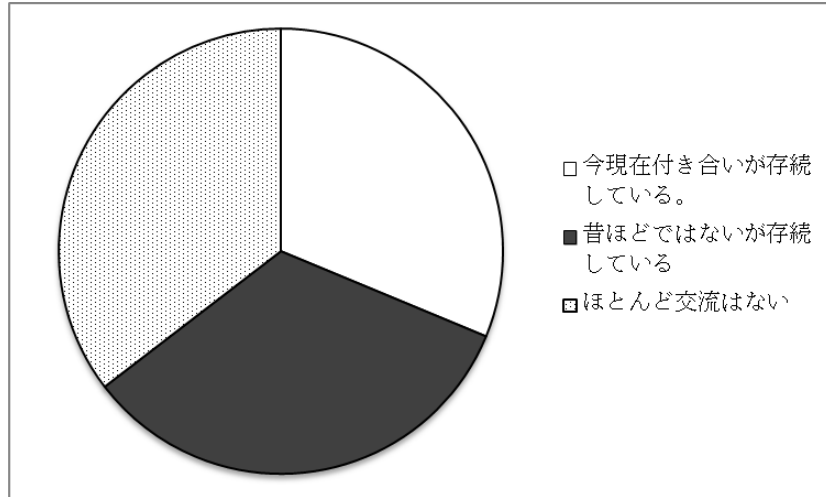


図3 避難に伴うコミュニティの状況

**(4)現在の不安・不満**

現在の不安・不満に関して尋ねましたが、避難生活が4ヶ月以上も過ぎる中で、諦め、落胆意識が出てきている状況も感じられ、また、聞き取り調査での時間的限界もあり、不満・不安の意向を十分に把握できている調査とはなっていません。

放射能汚染に関する心配、健康不安、子どもの将来、帰村の可能性を含めて、将来への不安が多く語られています。

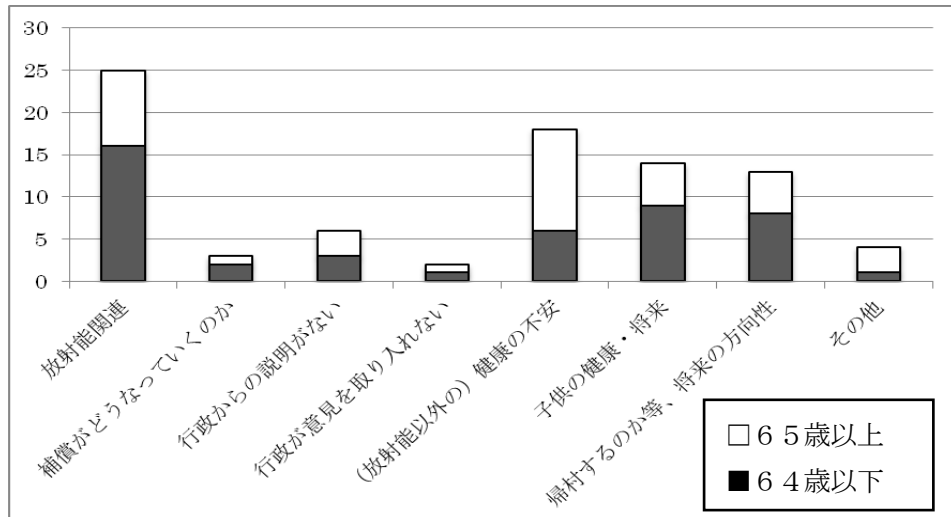


図4 現在の不安・不満内容

**(5)今後の展望について**

当然ながら震災前の状況に一日も早く東電、国に戻してもらいたいという意向ではありますが、現状の放射

能汚染状況、除染状況等の情報の中で、村民が苦渋の思いで将来像を語っています。村に是が非でも戻りたいという意向は4割程度であるのに対して、村外に移住してもよいという意向は7割程度になっています。仮設住宅ということで高齢者が多い状況でもこのような意向が出ました。その理由としては、下記の自由意見の箇所を見ていただくと分かるように、子どもや孫が戻れない状況で、村に戻り暮らすことの意義に関して疑問を感じている高齢者も多いということだと思われます。放射能汚染での健康被害が心配される状況の中で、子どもを帰したくないという意識もあります。家族みんなですら暮らしたいという気持ち、避難の中で世帯分離、家族ばらばらとなっている今の状況をより改善したいという意向が強いと思います。

宅地、農地、森林の除染の効果がどの程度あるのかが見通せないなかで、長期的で厳しい環境下での避難暮らしではなく、落ち着いた場所に、家族、集落、仲間達と一緒にまとまって移住することを願っている意向が強いと思います。若者、高齢者の年齢に関係なくその意向は、芽生えています。この状況を強く受け止め、適切な施策、村民の協働行動を取っていくことが求められていると思います。

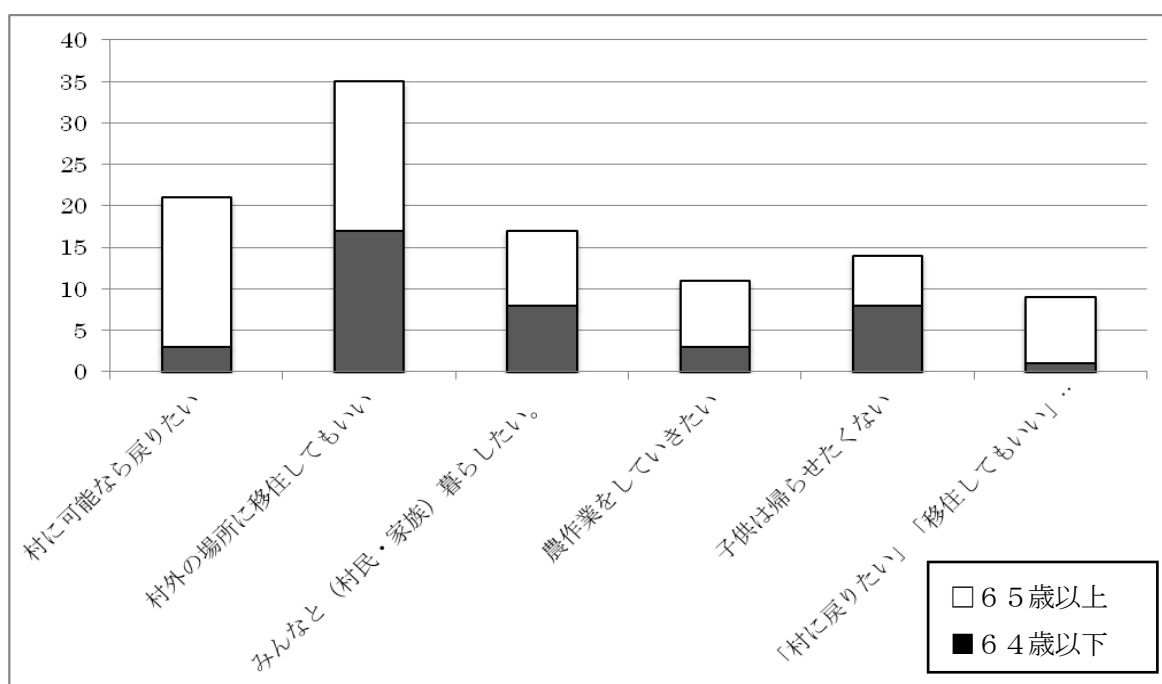


図5 将来展望(帰村、移住意向等)

★ 将来展望に関する聞き取り地調査村民の意見一覧 (各文の後の数字は回答者の年齢)

A) 村に可能なら戻りたい

★ 64歳以下

- ・家に帰りたい。これ以上遠くに行きたくない。子供はどこへでも行って欲しい。64
- ・帰りたい。移住は考えていない。農作業しなくても生きて行ける。62
- ・戻るのがベストだが、戻ることにはできないだろう。その場合、相馬に住みたい。住む家族形態は問わない。56

★ 65歳以上

- ・どうしても村に戻りたい。2年では戻れないと聞くが、なるべく早く。87
- ・村が皆もどるのであれば、帰村。村長の言うことによる。86
- ・長年住み慣れた家に帰りたい。84

- ・帰った方が安心でいい。田んぼも畑も買ってもらって生活したい。 83
- ・帰りたい>移住。子供は移住して頑張れるかも。 83
- ・村。自分がアパートとか部屋を見つけて暮らしたいとは思わない。知っている人と暮らせるようになればそれに越したことはない。 80
- ・帰村はしたいが、除染に対して期待していないため、移住も考えている。 79
- ・息子は年金をもらうまで牛をやると言っているが、牛の数を増やした(200頭、稲わら)ので心配。牛がないなら避難先に住みたいと、息子は言っている。自分は難しく、福島にいる娘を頼りたい。

79

- ・お墓参りをするためにも村に戻りたい。移住は考えていない。 78
- ・昭和58年に家を建てた。子供は結婚でいなくなった。ローンがないからいいが。帰れるとなれば、帰りたいが、移住も考えている。 77
- ・帰村はしたいけど、除染にも期待していないため、戻れなければ、村を出ることになる。 75
- ・大倉は放射線が低くなくても帰村は難しい。我々の代は帰るが。子供は子供の決意。子どもに返れとは言えない。当初は帰るつもりがあったが。 74
- ・新しいところに行くと言ってもどこに行く。寒いところはいや。村を上げていくならどこでも行く。できれば村に戻りたい。 74
- ・本当に帰れるのか確かめたい。移住もいいなあとは思う。 74
- ・村に帰りたい。部落ごとに移り住むなら移住もあり。 74
- ・帰村したい。社会資本が整った上で、生活に支障はない。但し、孫が来れるような状況でないと。となると帰村は難しい。 71
- ・帰りたい。週一では帰っている。移住はあまりない。子も40なので帰っている。 70
- ・帰れれば帰りたい。福島県内の中通りや浜通り。近所だった6家族でこれからもいたい。 69

## B) 村外の場所に移住してもいい

### ★64歳以下

- ・この仮設住宅暮らしでいい。家賃もなし。伊達市でもいい。床屋も病院もあり、便利。 62
- ・ワイワイ集団で暮らしたい。分村の対応も必要。除染の期待はしない。 61
- ・新しい分村が良い。(国見町でもいい) 59
- ・村じゃなくても、移住でもいい。家族と暮らせれば良い。 57
- ・孫、子供と一緒に生きていくから帰る事はない。移住は賛成。福島内が良い(仕事の関係で) 57
- ・戻るのがベストだが、戻ることはできないだろう。その場合、相馬に住みたい。住む家族形態は問わない。 56
- ・帰って生活するのは難しい。第2の飯舘村を作り20~30年スパンで物事を見ていきたい。 55
- ・仮設を出てアパートか、戸建てがいいかも。移住したい思いはあるが家族と意見が分かれそう。 55
- ・あまり遠くないところで仮設を出て暮らしたい。 52
- ・家族で移住できるならしたい。金の問題がなければ。 34
- ・北には行きたくない。沖縄にいてもいるから行くかもしれない。移住には賛成。 34
- ・内部被爆の問題もあり、空間線量の0,1mSv。帰るつもりはない。賃貸だったし。「ふるさと」があっても良い。 32
- ・子供と友達を離れたくない。村の人と一緒にいたい。移住は賛成で、でも夫は川俣で仕事。できれば

近くが良い。31

- ・子供がいなければ帰ろうと思うが、帰れない。新飯館村が良い。みんなで行けるならみんなが集まれるはず。26
- ・飯館村は元には全体もどらない。絶対戻らない。移住。避難解除になったら戻れるがだめ。先が見えない。山と自然がある暮らしが良い。子供の将来を考えると移住。お金が大切。保障。50年後かに戻るか？25

★65歳以上

- ・家族と一緒にならどこでもいい。飯館には帰れない。80
- ・帰村はしたいが、除染に対して期待していないため、移住も考えている。79
- ・昭和58年に家を建てた。子供は結婚でいなくなった。ローンがないからいいが。帰れるとなれば、帰りたいが、移住も考えている。77
- ・代替地を提供して、集落での新しい村作りをする。栃木県の鹿沼市あたりが適地。鹿沼市には一次避難していた。76
- ・帰村はしたいけど、除染にも期待していないため、戻れなければ、村を出ることになる。75
- ・新しいところに行くと言ってもどこに行く。寒いところはいや。村を上げていくならどこでも行く。できれば村に戻りたい。74
- ・本当に帰れるのか確かめたい。移住もいいなあと思う。74
- ・村に帰りたい。部落ごとに移り住むなら移住もあり。74
- ・安全なところで暮らしたい。除染は無理。何千億も使って除染はするなら、自分の行きたいところに補償してもらいたい。除染は不可能。73
- ・除染は期待無。除染は平地からやるだろうから、自分の地区はあとまわしになるだろう。補助金がなくなるだろう。村できちんと新しい家を用意すべき。野手上はだめ。73
- ・農業ができるところ。除染はいつかはできると思っている。73
- ・移住（公営住宅）。家が古いので（37年経っている）。息子は国見に住みたい。飯館に帰りたくない。72
- ・帰っても仕事なく、ぼーっとしているようでは帰りたくない。今も月に3回帰る。（猫の面倒を見に行く）国見で戸建ての家を探しているが見つからない。71
- ・帰村したい。社会資本が整った上で、生活に支障はない。但し、孫が来れるような状況でないと。となると帰村は難しい。71
- ・どこでもいいが飯館村には帰りたくない。除染に対する期待はしていない。69
- ・みんな一緒なら移住してもいい。ひ孫は仙台に避難している。除染は難しいのでは？68
- ・移住の希望。65

C) みんなと（村民・家族）暮らしたい。

★64歳以下

- ・ワイワイ集団で暮らしたい。分村の対応も必要。除染の期待はしない。61
- ・村じゃなくても、移住でもいい。家族と暮らせれば良い。57
- ・孫、子供と一緒に生きていくから帰る事はない。移住は賛成。福島内が良い（仕事の関係で）57
- ・村の人がみんな集まれるような場所が欲しい。2~3のかたまりに分けてもいいからみんなで暮らしたい。運動場なども作ってほしい。村のパトロールは警備会社に頼めば、自分は遠くに引っ越してもいい。



い。55

- ・家族全員で暮らしたい。55
- ・仕事をしつつ、家族全員で暮らしたい。34
- ・子供と友達を離れたくない。村の人と一緒にいたい。移住は賛成で、でも夫は川俣で仕事。できれば近くが良い。31
- ・子供がいなければ帰ろうと思うが、帰れない。新飯館村が良い。みんなで行けるならみんなが集まれるはず。26

★65歳以上

- ・孫も早く帰ってきて、皆さんと一緒に暮らしたい。87
- ・村。自分がアパートとか部屋を見つけて暮らしたいとは思わない。知っている人と暮らせるようになればそれに越したことはない80
- ・家族と一緒にならどこでもいい。飯館には帰れない。80
- ・家族と会えて、話し相手が近所にいて、健康への不安もない状態で十分。79
- ・集落で暮らす76
- ・安全なところで暮らしたい。家族そろって住みたい。元の暮らしが一番良い。74
- ・帰村したい。社会資本が整った上で、生活に支障はない。但し、孫が来れるような状況でないと。となると帰村は難しい。71
- ・みんな一緒なら移住してもいい。ひ孫は仙台に避難している。除染は難しいのでは？68
- ・帰れれば帰りたい。福島県内の中通りや浜通り。近所だった6家族でこれからもいたい。67

D) 農作業をしていきたい

★64歳以下

- ・多分、年を取っていると、無理かもしれない(農業)。早いうちならあり合える。57
- ・一戸建て希望。家庭菜園をやりたい。56
- ・帰れなければ移住を希望。県内で自然があって農作業できる場所。48

★65歳以上

- ・自分で食べるくらいの食料をつくっていききたい。一人で帰っても仕方ない。83
- ・家族以外も村民もみんなが集まって住みたい。できるなら農場がほしい。80
- ・村での生活が理想(畑仕事など)78
- ・健康であれば農作業を続けていききたい。75
- ・自分の食べるものは自分で作りたい。74
- ・広い土地で農業をしつつ、飯館村が元通りになるのを待つ。73
- ・野菜作りくらいはやりたい。友達・子供たち、みんな一緒がいい。68

E) 子供は帰らせたくない

★64歳以下

- ・家に帰りたい。これ以上遠くに行きたくない。子供はどこへでも行って欲しい。64
- ・子供のリスクを考えれば、みんなですぐに逃げて暮らしたい。34
- ・別荘的に行ければ良い(飯館には)ただし、子供は連れて行けない。32
- ・子供と友達を離れたくない。村の人と一緒にいたい。移住は賛成で、でも夫は川俣で仕事。

できれば近くが良い。31

- ・子供がいなければ帰ろうと思うが帰れない。新飯館村が良い。みんなで行けるならみんなが集まれるはず。26
- ・飯館村は元には全体もどらない。絶対戻らない。移住。避難解除になったら戻れるがだめ。先が見えない。山と自然がある暮らしが良い。子供の将来を考えると移住。お金が大切。保障。50年後かに戻るか？25

#### ★65歳以上

- ・孫などいるし一緒にはと言われるが学校とかあるし難しい。飯館に帰るなら2人で住むイメージ。77
- ・大倉は放射線が低くなくても帰村は難しい。我々の代は帰るが。子供は子供の決意。子どもに返れとは言えない。当初は帰るつもりがあったが。74
- ・息子は帰る気はない。自分の家は戦前の開拓の家であり古くはない。73
- ・移住（公営住宅）。家が古いので（37年経っている）。息子は国見に住みたい。飯館に帰りたくない。72
- ・帰村したい。社会資本が整った上で、生活に支障はない。但し、孫が来れるような状況でない。となると帰村は難しい。71

#### ■■参考情報

10月4日緊急シンポジウム（「負けねど飯館」、NPO法人エコロジー・アーキスケープ共催）の参加者アンケートの結果。「負けねど飯館」のHPに掲載されています。

<http://space.geocities.jp/iitate0311/decontamination.html>

参加者約160人（登壇者やマスコミ関係者を含む）余りが参加した集会で有効サンプル数が村民37名で「この結果をもって村民の意向である」とは到底言い切れるものではありません。ただ、若い人達の意見もあり、先の仮設住宅での村民意向と比較してみる価値はあります。

37名の内、30代以下が14名、40代～50代が19名で3/2を占めました。「2年で住環境の除染が完了するか」の間では75%が「可能性はない」としています。「2年度に帰村して生活するか」では、「生活しない」55%、「わからない」30%であり、また、「原発事故以前の生活に戻れることの可能性」は、「可能性はない」57%、「可能性は低い」21%であり、帰村の厳しさを意識しています。「住民参加による除染作業に対する評価」では、「反対」が57%、「分からない」18%です。「除染計画や実際の除染効果に対して極めて『懐疑的』な考えを持っている村民の割合が多い」という意識状況です。

「負けねど飯館」のHPでは、「10月4日の集会では、「とにかく、村民の声を聞いてもらえる機会が必要だ」といった主旨の発言が多かったと記憶しています。「できるだけ多くの村民の意向を聞くためにアンケートを行うことが急務だ」といった声も少なくありませんでした。」とより開かれた意見交換の場の設定が必要となっています。

本調査の実施にあたっては、NPO法人エコロジー・アーキスケープの実施する飯館村民支援活動（避難先における村民向け学習会・ワークショップの開催）に対して交付された“日本財団 ROAD プロジェクト「東北地方太平洋沖地震 災害にかかる支援活動」助成金”を交通費等の一部に活用しています。

